平成 20 年 8 月 1 日
第 15 号

# やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

## 日々草とマリーゴールド
# 夏の花に植え替え 景観形成活動



りっぱに育つように一本ずつ丁寧に植える

農地の景観を少しでも良くして環境向上を図ろうというのが、基本です。加えて共同で作業することで意識の向上も図れるという一石二鳥の効果もあります。

7月13日、昨年の暮れから咲き続けてくれたビオラを抜いて、一旦土を掘り起こしました。スギナのような深い根もできるだけ取り除きます。今回植えるのは日々草と、マリーゴールドを各20本です。土の中にそっとおいて新たな土をかけ水をしっかり上げて作業は終わりです。

実際には花の世話は楽ではありませんが、自分の植えた花がどうなっているか気にかかるようになります。水をやり、草を取り、花を見守るそうした活動が結果的に景観を向上させるのだろうと思います。

### ジャンボタニシの処分

捕獲したジャンボタニシを処分するための袋詰めも行いました。ドラム缶の中でも相当期間生きているようで、強い生命力です。

作業が進むと辺りを腐敗臭が覆います。我慢に我慢して、なんとか袋詰めが終わりました

## 流域の環境美化に協力

堪野川クリーンキャンペーンがふしの夏まつりの翌日に行われました。

堪野川流域近隣地区が協力して、清掃作業をするものです。例年の通りに地区役員と班長が参加しました。

自動車のホイールキャップを始め、たくさんの空き缶やビンが捨てられていました。



各自ごみ袋を持って、作業に出発



集められたごみは市が最終処理をする

# 踊って、花火を楽しんだ「ふしの夏まつり」



ふしの踊りと小郡音頭を踊り抜いた八方原地区

第30回ふしの夏まつりが例年の通り7月の終わりの土曜日に行われました。花火大会と厳島神社の管弦祭が一緒になった形になって、その中に市民総踊りが大きな柱となっています。

地区では一週間前に「踊りの練習」を行いました。参加者のほとんどが女性でしたが、男性も二名参加しました。日頃踊りを続けるわけではないので、細かいところを忘れていたりします。大いに効果のある練習でした。

八方原地区は50名を超す参加がありました。地区の参加が少なくなっている中、奮闘しています。

踊りの参加人数は全体で650人ほどでした。昨年よりも増えています。まつり全体の来場者も昨年よりも増えているようです。



盲目のギタリスト「田川ヒロアキ」の演奏はその特異な奏法と華麗なプレイで観客を魅了した

# ことしは「ドッヂビー」の大会に

ことしの夏は猛烈な暑さです。しかし子どもたちは元気いっぱい、毎日ラジオ体操にやってきます。

子ども会の球技大会は長い間、男子はソフトボール、女子はフットベースボールと決まっていました。しかしことしから種目も日程も変わりました。

あまり聞き慣れない名前の競技は「ドッヂビー」と言います。これはドッヂボールのルールでボールの代わりに柔らかい円盤を用いるもので当たっても痛くありません。大会は8月10日です。チームを組む森下区とも練習が始まりました。応援しましょう。



ラジオ体操のリーダー

# お願いします墓地の草刈り

お盆前の恒例行事墓地の草刈りを、8月3日（日）の早朝7時から行います。関係者の方の参加よろしくお願いします。

墓地管理委員が7月初旬に除草剤を散布していますが、作業には刈り払い機などの機械が有効です。

例年通りであれば、作業は30分程度で終了します。早朝とはいえ真夏の時期ですので、事故の無いように気をつけながら手早く行います。

# 八方原ふれあい盆踊り大会近づく

八方原ふれあい盆踊りが8月9日（土）の夜、森下アパート横、三角公園で行われます。

ずっと昔は初盆を迎えるお家で盆踊りを行っていました。それが一時期廃れてしまっていたのを、地区盆踊りとして復活したものです。故人の霊を慰めること、その縁によって家と家、日頃言葉を交わすことのないご近所とふれあう貴重なチャンスです、有効にご利用ください。

ことしもいつも通りのバザーが行われます。大いに楽しんでください。各グループでは準備万端、皆さんのご来場を待ちしています。



真夏の「おでん」も格別な味（生改連）